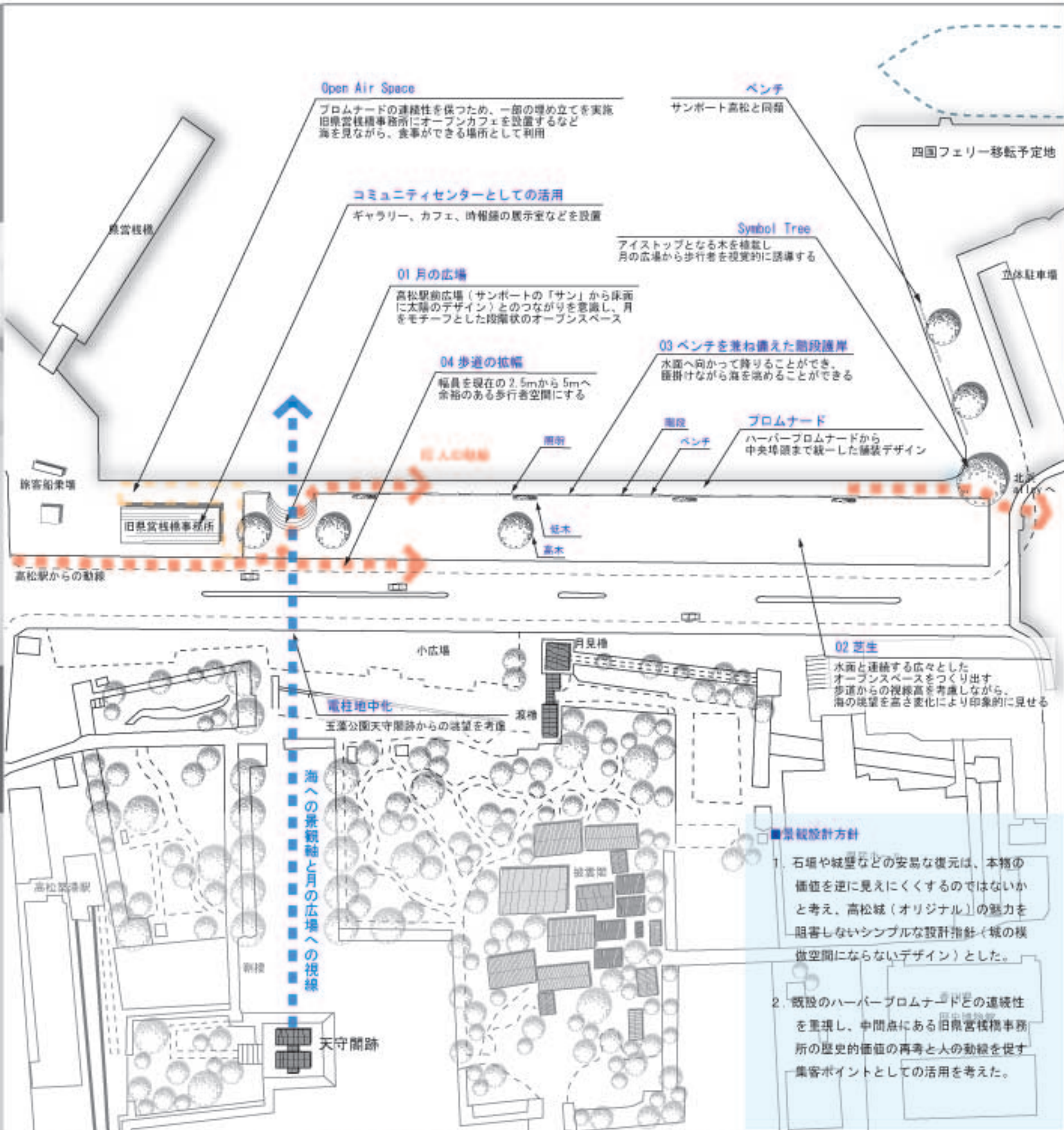


水城通り沿岸部のデザイン

水城都市の再生

旧県庁橋東側の空間に人の賑わいを取り戻す中心的なスペースを、天守閣跡からの眺望を阻害することなく設計する必要がある。また、このエリアはサンポート高松側から中央埠頭までコの字型に海を囲んでおり、中央埠頭からは対岸のシンボルタワーやサンポート高松の賑わいの様子を見ることができる。さらには水城通りから中央埠頭まで続く沿岸部は、中央埠頭手前で海側へ直角に曲がるため、前方にある海や島に近づいていく期待感ももてる。そのため、景観デザインを考えるうえで中央埠頭付近は、ポイントとなる可能性が高い。これらを踏まえ、対象空間を親水性の高いオープンスペースとして利用することを提案する。

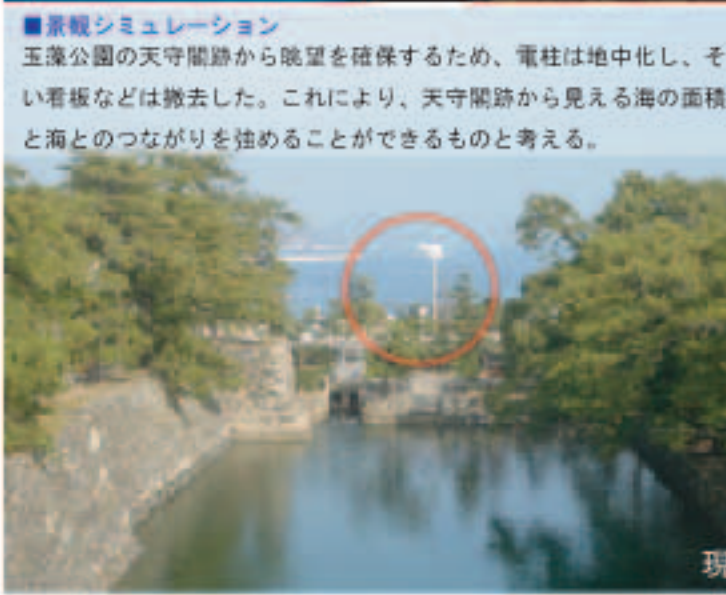
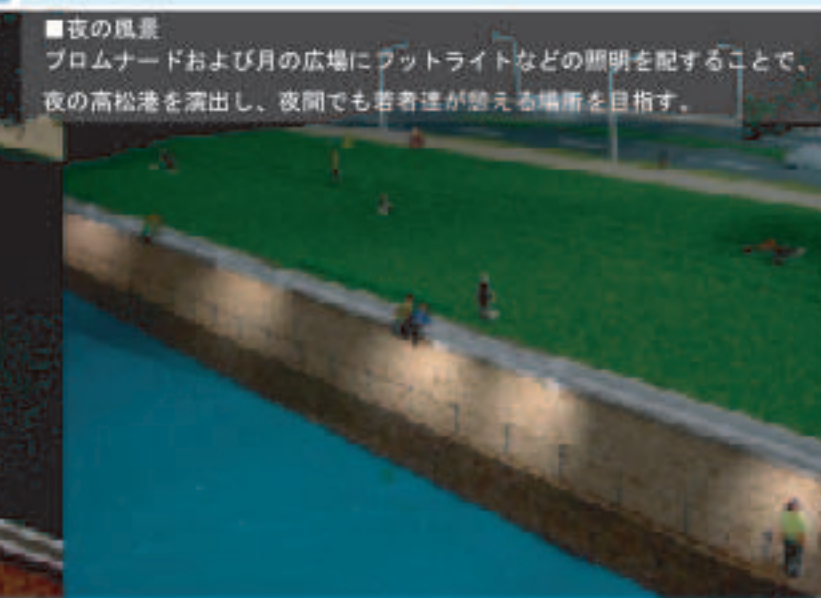
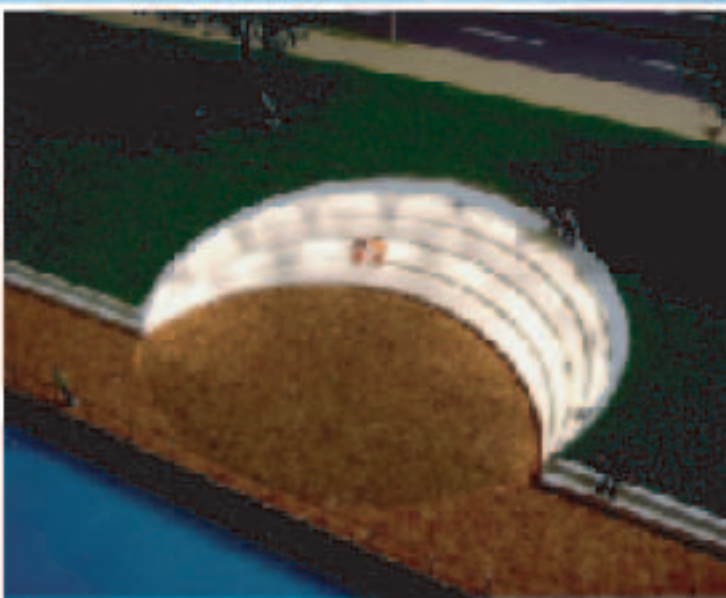


01 月の広場

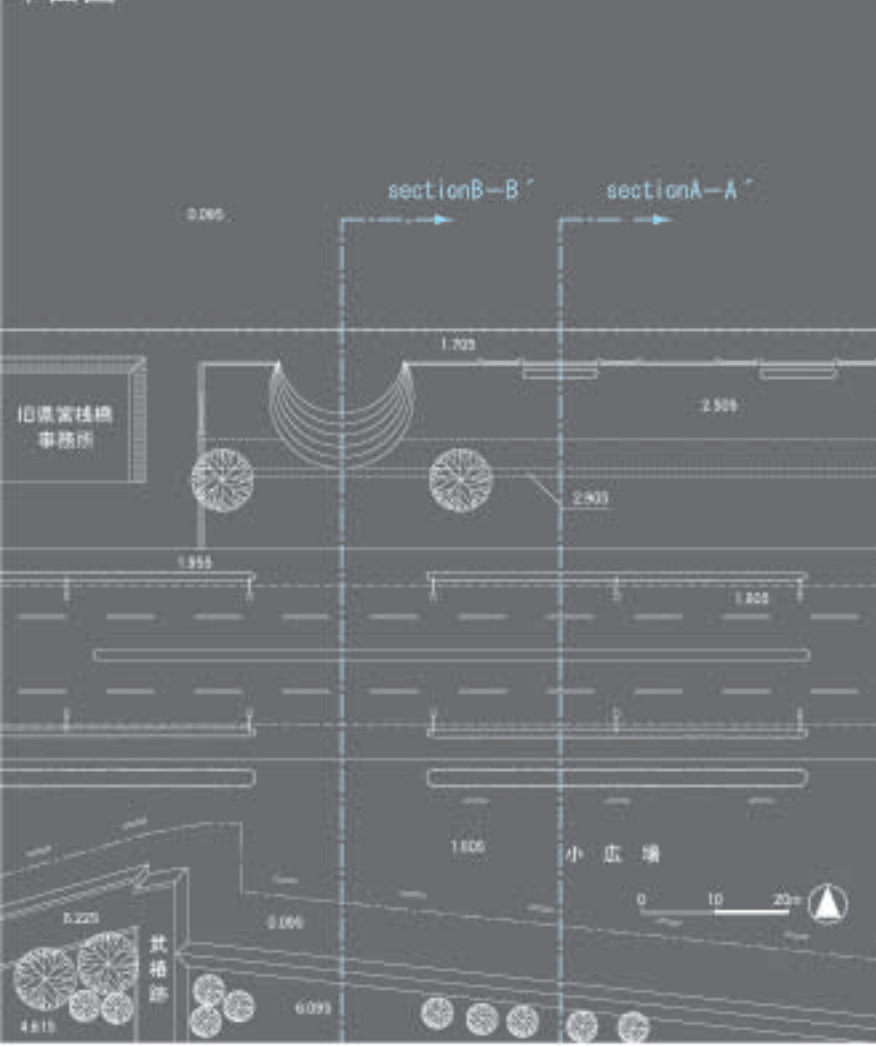
05 人の動線
この場所に拠点となるスペースを置くことで、高松駅から北浜アリーナへの人通りの向上を考えた。具体的なデザインとして、天守閣からの景観軸を考慮し、景観軸上に広場を設置することで、水城通りへの興味を喚起してもらえようとした。また、北浜アリーナ側のオープンスペース端にシンボルツリーを設置することで、広場からの視覚的誘導を図った（アイストッブ効果）。さらに高松港の歴史的価値である旧県庁橋事務所跡の建物を集客ポイントとして再活用することで、人通りの向上を目指している。

夜の風景
プロムナードおよび月の広場にフットライトなどの照明を配することで、夜の高松港を演出し、夜間でも看客達が憩える場所を目指す。

景観シミュレーション
玉藻公園の天守閣跡から眺望を確保するため、電柱は地中化し、その周辺にある背の高い看板などは撤去した。これにより、天守閣跡から見える海の面積は広がり、玉藻公園と海とのつながりを強めることができるものとする。



平面図



断面図

